

Newsletter

—学会会報—

The Japanese Society for Curriculum Studies

発行：日本カリキュラム学会事務局

目 次

〈理事会報告 (2021 年 6 月 18 日)〉

■ 審議事項

I 総会議事

II 第 32 回大会について

III 各種委員会の 2020 年度活動報告および 2021 年度活動計画について

IV その他

■ 報告事項

V 事務局報告

VI その他

〈総会報告 (2021 年 6 月 27 日)〉

1 第 31 回大会年度 (2020 年度) 活動報告について

2 第 32 回大会年度 (2021 年度) 活動方針案について

3 研究奨励賞規程の改正について

〈第 11 回研究集会 (2021 年 3 月 21 日) 報告〉

〈「秋のセミナー2021」オンライン開催のお知らせ (第一次案内)〉

〈事務局からのお知らせ〉

理事会報告 (2021 年 6 月 18 日)

定例理事会が 6 月 18 日 (金) 16 時 30 分から 18 時 30 分まで、Zoom を用いたウェブ会議形式で開催された。事務局 3 名を含む 30 名 (うち理事 27 名) の参加があった。

審議に先立ち、松下代表理事より、例年であれば今回の定例理事会は大会 1 日目の前日に開催されているが今年度は総会の議事に関わる議題を審議する必要があったため例年よりも 1 週間程度早くに開催することとなったこと、および、理事会への参加、大会準備に係る御礼が述べられた。

■ 審議事項

I 総会議事

二宮事務局長より、資料に基づき、総会議事についての提案と説明がなされた。

2021年度の予算案について、資料では「紀要編集委員会（研究奨励賞審査委員会を含む）」という項目にまとめられていた紀要編集委員会と研究奨励賞審査委員会の予算（予算額：20万円）を、それぞれの委員会ごとに分けて項目立てることが提案された。審議の結果、委員会ごとに分けて示すこととなった。また、予算額については、これまでの実績等をふまえて、紀要編集委員会の予算を10万円、研究奨励賞審査委員会の予算を10万円というかたちで修正することとなった。

研究奨励賞の規程改正については、本理事会での承認を得られた場合、総会の議案とすることが提案され、了承された。

その他の内容については、提案の通りに進めることとなった。

II 第32回大会について

二宮事務局長、ならびに上地第32回大会実行委員会委員長より、資料に基づき、委託先のホームページに作成いただいている第32回大会のウェブサイトのレイアウトや使い方、加筆修正予定項目等についての説明がなされた。

現在、発表要旨と発表資料の両方が印刷もダウンロードも行えない仕様になっている点について、可能であれば、発表要旨については印刷とダウンロードが可能な仕様に変更してはどうかという提案がなされた。審議の結果、「発表要旨は印刷・ダウンロード可能なかたちに変更できる場合は変更する」ことが、また、それが無理な場合には、学会ウェブサイトの「会員専用ページ」内の「大会アーカイブ」のページに第32回大会のページを作成し、そこに、全発表者の要旨が含まれた要旨集のファイルをアップロードしておき、それを自由に印刷・ダウンロード可能なかたちにすることとなった。加えて、その旨を大会のウェブサイト内で、参加者に分かりやすく提示することとなった。

上地第32回大会実行委員会委員長より、資料に基づき、大会時の司会者マニュアルの内容ならびに当日の進め方についての説明がなされた。審議の結果、接続等に関するトラブルが発生した場合の対応方法について一部修正するとともに、その他の内容については提案の通りに進めることとなった。また、修正内容を反映させた修正版の司会者マニュアルを、改めて、司会者に送付することとなった。

その後、上地第32回大会実行委員会委員長より、大会参加申込者数や参加費納入状況等に関する報告があった。

III 各種委員会の2020年度活動報告および2021年度活動計画について

1. 紀要編集委員会

磯田委員長より、『カリキュラム研究』第30号の発行完了が報告されるとともに、発行に係る理事各位の協力に対する御礼が述べられた。

続いて、磯田委員長より、次号の発行に向けて紀要編集委員会で検討すべき事項として、「論文の査読結果の返送手続き（査読者からのコメントを査読者ごとに分けて示すという現行の方法を継続するか、コメントの内容は変更しないように留意しつつ、紀要編集委員会においてまとめるなどの整理を行う方法に変更した方が良いかが議論となったため）」「著者による校閲を1回から2回に変更すること（修正箇所が正しく修正されているかを著者本人も確認できるようにする方が良いのではないかと考えられるため）」「採択決定後の原稿の修正を認める範囲・程度（やや「大幅な修正」と言える修正が行われた案件があったため）」が提案された。審議の結果、提案の通りに進めることが承認され、本件については紀要編集委員会において引き続き検討のうえ、改めて理事会に諮られることとなった。

2. 国際交流委員会

澤田委員長より、資料に基づき、報告があった。

国際交流委員会が2021年6月1日（火）20:00-21:00にZoomを用いたオンライン会議のかたちで開催されたこと、および、そこで、以下の内容に関する審議が行われたことが報告された。

- 毎年度、研究委員会や広報・若手育成委員会は、各々研究集会や秋季セミナーといった独自企画を実施しているが、本委員会では、今のところ、大会の課題研究設定及び海外研究報告原稿掲載以外の目立った企画を有していないように思われるため、国際交流委員会の独自企画を検討課題としたこと。具体的には、これまでに行われた企画の内容の確認とともに、今後の新たな企画の可能性について、国際交流委員会のメンバーが有する人脈の範囲内で、比較的小規模のオンラインセミナー等の開催可能性について検討することになったこと。
- 来年度大会企画についての協議は、次回委員会に持ち越しとなったこと。

国際交流委員会の今後の取り組みについて、上記の内容に基づき同委員会において引き続き検討を進めてゆくこととなった。

3. 研究委員会

上地委員長より、資料に基づき、報告があった。

まず、前回理事会から現在までに行った活動として、2021年3月21日に研究集会を開催したこと、および、第32回大会の課題研究Ⅰ・Ⅱについての準備を進めてきたことが報告された。

続いて、今年度の取り組みについて、今後研究委員会で次回の「研究集会」の詳細を検討して秋の理事会に具体案を提出する予定であることと、2022年度の課題研究についても例年通りに企画を進める予定であることが提案され、提案の通りに進めることが承認された。

4. 広報・若手育成委員会

根津委員長より、資料に基づき、報告があった。

まず、前回理事会から現在までに行った活動として、主に電子メールで情報共有しつつ、各種企画を進めてきたことが報告された。続いて、今年度の取り組みについて、以下の内容が提案され、提案の通りに進めることが承認された。

- 「秋のセミナー2021」を11月にウェビナーで開催する予定であること、および、大会

終了後にテーマ・担当者・日程を含めて準備を始める予定であること。

- 「若手育成」の新企画として、3月理事会の報告通り、院生・研究生の会員を対象に、読書会を企画運営すること、および、大会終了後に担当者と日程の調整、広報などに着手する予定であること。また、総会終了後（予算承認後）に、30周年記念誌を新規入会の大学院生会員に提供する予定であることと、その経費については広報・若手育成委員会の予算から支出する予定であること。
- 2022年、2023年大会の課題研究については、2021年と同様の方向で検討を進める予定であること。
- 予算については、例年通り（30万円）を希望すること、その主な用途は、「秋のセミナー」関連と「若手育成」企画であること、オンライン化により削減も可能と思われるが、さしあたり現状維持で進めたいこと。

5. 研究奨励賞審査委員会

小柳研究奨励賞審査委員長より、資料に基づき、学会賞（「優秀発表賞」および「研究奨励賞」）に関する提案があった。

まず、3月の理事会までの経過ならびに3月の理事会で出された意見の概要が説明されるとともに、それをふまえた「日本カリキュラム学会 優秀発表賞及び研究奨励賞に関する規程（修正案）」「日本カリキュラム学会 優秀発表賞及び研究奨励賞細則（修正案）」が提案されるとともに、規程に関する対照表が示された。

本件に関するこれまでの審議過程について、臨時理事会で何らかの議題に関する決議が行われること自体は問題ではないものの、事前に議題として示された内容以外の議題に関する決議が行われることには留意が必要である（審議すること自体は問題なし）と考えられるという意見が出された（欠席する理事が、事前に提示された議題の内容に基づいて決議を他の理事・代表理事に委任する場合があるため）。本件については、今後、十分に留意しながら理事会での審議や決議を行うことが確認された。

審議の結果、研究奨励賞と優秀発表賞を今回の理事会で提示された規程案に沿って進めていくこと（優秀発表賞の細則案等は次の大会での実現に向けてさらに検討していくことも含めて）が承認された。

対象者の決定方法について、研究奨励賞審査委員会において審議した結果をまとめた後、その結果を理事会に報告して「承認を得る」ものとするか、理事会において「審議を行い、そのうえで承認を得る」ものとするかが審議事項として示された。審議の結果、研究奨励賞審査委員会において審議した結果をまとめた後、その結果を理事会に報告して「承認を得る」ものとなった。

優秀発表賞に賞金を出すかどうか審議事項として提案された。審議の結果、賞金を出すこととし、金額については1万円とすることが決定されるとともに、研究奨励賞については現行通りの5万円とすることが確認された。また、本件の決定に伴い、その旨を「日本カリキュラム学会 優秀発表賞及び研究奨励賞に関する規程（修正案）」にも明記することが確認された。

審査対象となる発表については未公開・オリジナルのものに限るとすることが提案され、審議の結果、提案の通りに進めることとなった。

過去の総会で審議・承認された現行の規程について、今後の規程の改正を理事会での審議事項へと変更するという提案について、審議が行われた。審議の結果、その変更自体の可否については総会で審議すること、および、総会での審議を経て承認された場合にはその後の改正については理事会での審議事項とするというかたちで進めることとなった。

IV その他

特になし

■報告事項

V 事務局報告（後掲の「事務局からのお知らせ」を参照）

二宮事務局長より、資料に基づき、「会員現況報告」「寄贈図書一覧」「会計監査」に関する報告がなされた。

VI その他

今回の定例理事会の審議の経過によっては2021年6月25日に開催する可能性が検討されていた臨時理事会については、開催しないこととなった。

また、次回の定例理事会について、以下の日程で開催する予定であることが確認された。

日時：2021年11月に開催することとし、具体的な日時については改めて日程調整のういで決定する。

※ 日程調整の結果、2021年11月20日（土）10時から12時30分に開催することとなった。

開催方法：Zoomを用いたウェブ会議のかたちで開催

総会報告（2021年6月27日）

日本カリキュラム学会の第32回大会総会を、第32回琉球大学web大会の2日目（2021年6月27日）の12時45分から13時20分まで、上地完治会員（琉球大学）と柴田好章会員（次期大会校／名古屋大学）を議長団として、総会が開催されました。今回は、Zoomのウェビナーを用いたオンラインでの開催となり、57名の会員の参加がありました。これにおいて、2021年6月18日（金）の理事会で承認された議案が、すべて承認されました。

なお、ウェビナーに備わっているチャットや「手をあげる」機能を利用して総会資料の配布や質疑応答を実施しましたが、総会資料がダウンロードできない、質疑が行えないといった不具合が一部の参加者に発生してしまいました。以下に、総会中にいただいた質問に関する回答も加筆した総会報告を掲載させていただきますので、ご確認ください。

第 32 回大会総会 議事次第

新型コロナウイルス感染拡大のためオンライン会議にて実施

6月27日 12:45～13:20

1. 第 31 回大会年度（2020 年度）活動報告について

(1) 一般活動報告

①現況概要（2021 年 6 月 10 日時点）

会員数や会費納入状況は以下の通りである。

会員総数 712 名（一般会員 629、学生会員 77、団体会員 6 件）

※連絡先不明者 16 名、会員一時資格停止者 29 名、退会希望者(会費未納)2 名を含む。

2021 年度からの新入会者：23 名（一般：11 名、学生：12 名）

会費納入状況

2021 年度：完納 430 名 未納 251 名 計 681 名 63.1%

※連絡先不明者 12 名含む、会員一時資格停止者 29 名・退会希望者(会費未納)2 名除く。

(2020 年度：94.2%、2019 年度：93.8%)

・2020 年度の入会者の内訳は以下の通りである。近年、小中高等学校・特別支援学校などの現場教員からの入会が 20%前後となっており、以前に比べると増加している。

2020 年度入会者：一般会員 24 名 学生会員 11 名 合計 35 名

大学・大学院 69%（内訳：大学関係者 13 名 大学(院)生 11 名）

小中高等学校 20%（内訳：小学校 4 名 高等学校 3 名）

その他 11%（内訳：教育委員会・研究機関 4 名）

過年度

2019 年度：大学等 65%、小中高等学校：27%

2018 年度：大学等 77%、小中高等学校：19%

2017 年度：大学等 77%、小中高等学校：6%

2016 年度：大学等 73%、小中高等学校：14%

②第 31 回大会報告

日本カリキュラム学会第 31 回大会は、当初、琉球大学を会場にして 6 月 27 日～28 日の日程で開催する予定であったが、新型コロナウイルス感染拡大の影響を受けて現地開催を断念し、シンポジウム、課題研究、自主企画セッションを中止して自由研究発表のみをオンライン形式で実施し、名称を「日本カリキュラム学会第 31 回琉球大学 web 大会」と変更して 6 月 28 日に開催した。自由研究発表については、発表要旨と発表資料を学会ホームページの会員専用ページに掲載することによって発表とみなした。自由研究発表では 32 件の発表があり、希望する自由研究発表者には Zoom によるオンラインでの双方向の発表機会が設けられ、自由研究発表 32 件のうち 6 件の発表が 6 月 28 日に Zoom で実施された。『カリキュラム研究』

第 30 号、および Newsletter の第 84 号・85 号に大会関連の報告を掲載。

③学会誌『カリキュラム研究』第 30 号発行

④Newsletter 第 83・84・85 号発行

2020 年 10 月 16 日に 83 号、2021 年 3 月 11 日に 84 号、2021 年 6 月 21 日に 85 号を発行した。

⑤学会研究奨励賞選考結果

2020 年度は該当者なし。

⑥会員勧誘の結果（2020 年度内）

新入会員 35 名（参考：昨年度 44 名、一昨年度 26 名）、2021 年度入会者は、現在までに 23 名となっている。

⑦秋のセミナー2020 の開催

日時：2020 年 11 月 8 日（日） 13 時 30 分から 16 時 30 分

開催方法：オンライン開催（Zoom のウェビナー）

テーマ：評価と評価活動にどう取り組むか

報告者：遠藤貴広(福井大学准教授)

「学習評価の実践をめぐる論点—熟議的コミュニケーションとしての評価への展望—」

堀 哲夫(山梨大学名誉教授)

「理科の学習指導の改善に生かす評価—OPPA を中心に —」

増田 陽(東京都公立小学校教諭)

「評価という窓からのぞく教室の景色」

コーディネーター・司会：石井英真（京都大学）・根津朋実（早稲田大学）

記録：富士原紀絵（お茶の水女子大学）

⑧第 11 回研究集会の開催

日時：2021 年 3 月 21 日（日） 10 時から 12 時

開催方法：オンライン開催（Zoom のウェビナー）

テーマ：GIGA スクール構想の課題と展望—カリキュラムを中心に—

報告者：大塚和明(文部科学省 情報教育・外国語教育課程情報教育振興室 室長補佐)

高橋 純(東京学芸大学准教授:独立行政法人教職員支援機構客員フェロー、文部科学省「教育の情報化に関する手引」作成検討会委員など)

中川 齊史(徳島市高志小学校校長:文科省 ICT 活用教育アドバイザー、教育情報化コーディネーター 1 級、総務省地域情報化アドバイザーなど)

指定討論者：西岡加名恵(京都大学)

コーディネーター・司会：村川雅弘(甲南女子大学)、木原俊行(大阪教育大学)

⑨学会声明の発表

- ・2020 年 5 月 日本教育学会による提言「9 月入学よりも、いま本当に必要な取り組みを」への賛同声明
- ・2020 年 10 月 理事有志による「日本学術会議新規会員任命拒否に関する声明」
- ・2020 年 11 月 日本学術会議第 25 期推薦会員任命拒否に関する 人文・社会科学系学協会共同声明

⑩その他

(2) 2020 年度決算報告・監査報告

【総会資料 1】

2021 年 5 月に会計監査を行なった。2020 年度は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により定例理事会や各種委員会活動、第 31 回大会、秋のセミナー、研究集会がオンラインでの開催や活動となったため、学会運営に関わる支出が減少したとの報告があった。会計の状況としては、特に問題点や不明瞭な点はなかった。

2. 第 32 回大会年度（2021 年度）活動方針案について

(1) 一般方針

- ①年次大会（第 32 回大会）の実施：琉球大学を開催校としてオンライン開催
- ②第 33 回大会（2021 年度）の準備：名古屋大学にて開催予定
- ③学会誌『カリキュラム研究』第 31 号発行
- ④学会研究奨励賞の選考
- ⑤秋のセミナー2021 の開催
- ⑥第 12 回研究集会の開催
- ⑦Newsletter、その他の広報活動
- ⑧会員勧誘
- ⑨その他

(2) 2021 年度予算案

【総会資料 2】

3. 研究奨励賞規程の改正について

【総会資料 3】

大きな改正点は以下の通りである。

- ①この間行った研究奨励賞の推薦方法等の修正では状況の改善が見られなかったことから、選考にあたる委員会を含む研究奨励賞の選考方法のさらなる修正を行う。
- ②若手学会員の研究を奨励する新たな賞を設置する。
- ③近年の新入会員の状況に鑑みて、年齢制限よりも学会入会後の年数を基準として、賞の授与対象となる「若手学会員」を再定義する。
- ④「日本カリキュラム学会 優秀発表賞及び研究奨励賞に関する規程」の改正を総会ではなく、理事会で行えるものとする。

【総会資料 1】

2020 年度決算報告・監査報告

日本カリキュラム学会
第31回大会年度(2020年度)決算報告書
(2020年4月1日～2021年3月31日)

収入の部

項目	予算額(円)	実績(円)
学会年会費	5,000,000	5,308,000
入会金	80,000	70,000
学会誌代・雑収入・利子等	50,000	33,034
第31回大会収入(除く補助費)	0	0
寄付	0	0
前年度繰越金	5,925,622	5,925,622
合計	11,055,622	11,336,656


支出の部

項目	予算額(円)	実績(円)
第31回大会補助費	1,000,000	0
第31回大会支出(除く補助費)	0	169,400
第30号紀要刊行費(含む発送費)	700,000	573,420
学会研究奨励賞費	0	0
会合費(交通費他)	1,300,000	0
事務局経費	150,000	38,327
事務局外部委託費	1,600,000	1,643,133
ホームページ委託運用費	250,000	265,100
財)日本学術協力財団賛助会費	50,000	50,000
教育関連学会連絡協議会会費	10,000	10,000
各種委員会経費		
紀要編集委員会(研究奨励賞審査委員会を含む)	200,000	55,637
国際交流委員会	100,000	262
研究委員会	300,000	40,285
広報・若手育成委員会	300,000	82,654
(小計)	900,000	178,838
理事・代表選挙経費	300,000	353,117
予備費	200,000	0
次年度繰越金	4,595,622	8,055,321
合計	11,055,622	11,336,656

本簿について監査しました。

2021年 5月 20日

上野 正道 

坂井 成 

【総会資料2】

第32回大会年度(2021年度)予算案(2021年4月1日～2022年3月31日)

収入の部

項目	予算額(円)	備考
学会年会費	5,000,000	過去2年分の実績にもとづく
入会金	80,000	○40名見込み(過去2年の実績による)
学会誌代・雑収入・利子等	50,000	
第32回大会収入(除く補助費)	700,000	○大会参加費を値下げしたため(200名参加と広告費で算出)
寄付	0	
前年度繰越金	8,055,321	
合計	13,885,321	

支出の部

項目	予算額(円)	備考
第32回大会補助費	0	○新型コロナの影響により現地開催が中止となり、web大会となったため大会校と相談した結果、補助費として事前支払いをしないこととなった。
第32回大会支出(除く補助費)	1,800,000	○新型コロナの影響により現地開催が中止となったため、大会に関わる費用を全て事後精算とするため。
第31号紀要刊行費(含む発送費)	700,000	J-STAGE掲載経費を含む
学会研究奨励賞費	0	該当者なし
会合費(交通費他)	1,300,000	○通常通り、定例理事会を開催できると見込んでの計上。夏以降の理事会もZoomによる開催となる場合、減額となる。
事務局経費	150,000	
事務局外部委託費	1,600,000	委託先「国際文献社」
ホームページ委託運用費	250,000	アーカイブ経費を含む
財)日本学術協力財団賛助会費	50,000	執行済
教育関連学会連絡協議会会費	10,000	
各種委員会経費		
紀要編集委員会	100,000	
国際交流委員会	100,000	
研究委員会	300,000	
広報・若手育成委員会	300,000	
研究奨励賞審査委員会	100,000	
(小計)	900,000	
理事・代表理事選挙経費	0	○2021年度は選挙は実施しないため。
予備費	200,000	
次年度繰越金	6,925,321	
合計	13,885,321	

備考欄の○は昨年度から変更等がある項目

大会支出の予算は、以下のような項目を経費として算出しております。予算の算出は大会業務を委託しているコムラからの見積もりにもとづいております。実際の支出額は第32回大会の決算報告をお待ちください。決算報告は理事会での報告後、Newsletterおよび『カリキュラム研究』に掲載されます。

第32回大会の主な経費項目

- 「参加者のweb受付システム」「大会webサイトの開設」「ドメイン・サーバ費用」
- 「参加登録・参加費の窓口業務」「シンポジウム ウェビナー配信」「Zoomアカウント取得費用」「登壇者の謝金」「大会補助アルバイト費用」

【総会資料3】

研究奨励賞規程の改正について

研究奨励賞審査委員会

(1) 日本カリキュラム学会研究奨励賞規程の改正について

日本カリキュラム学会研究奨励賞の現行の規程は、「趣旨：日本のカリキュラム研究の発展を期して、若手学会員(原則として満39歳以下)の研究を奨励することを目的とする。」としている。しかし、2015年度を最後に研究奨励賞受賞者が出ておらず、賞が実質的に機能していない。そのため、賞の趣旨に照らして、日本カリキュラム学会研究奨励賞規程の改正を提案する。主な修正点は以下の通りである。

- ①この間行った研究奨励賞の推薦方法等の修正では状況の改善が見られなかったことから、選考にあたる委員会を含む研究奨励賞の選考方法のさらなる修正を行う。
- ②若手学会員の研究を奨励する新たな賞を設置する。
- ③近年の新入会員の状況に鑑みて、年齢制限よりも学会入会後の年数を基準として、賞の授与対象となる「若手学会員」を再定義する。
- ④「日本カリキュラム学会 優秀発表賞及び研究奨励賞に関する規程」の改正を総会ではなく、理事会で行えるものとする。

(2) 日本カリキュラム学会 優秀発表賞及び研究奨励賞に関する規程(案)について

日本カリキュラム学会 優秀発表賞及び研究奨励賞に関する規程（案）

1. 趣旨：日本カリキュラム学会は、カリキュラム研究の奨励と今後のさらなる発展が期待できる優秀な若手カリキュラム研究者を表彰することを目的として、原則として毎年、優秀発表賞及び研究奨励賞を授与する。なお両賞の審査に関わって、学会賞委員会を置く。

2. 授与の対象と副賞：優秀発表賞（若干名）と研究奨励賞（原則1名）の2つを定める。優秀発表賞の場合、入会后2年以上8年以下の会員が対象となる。ただし前年度受賞者は対象外とする。研究奨励賞の場合、入会后2年以上15年以下の学会活動歴を持つ会員が対象となる。優秀発表賞には賞状と賞金1万円を授与する。研究奨励賞には賞状と賞金5万円を授与する。

3. 審査（又は選考）の対象

(1) 優秀発表賞：当該年度の全国大会において発表された内容（発表要旨、所定の期日までに提出された発表資料を中心に行い、当日の発表の様子を参考）とする。なお他学会等での発表と重複しない、未公刊でオリジナルなものでなくてはならない。

(2) 研究奨励賞：応募締切日から過去2年間に公刊された本学会紀要掲載論文、カリキュラム研究に関する本学会員の著書等とする。

4. 応募の方法：優秀発表賞の場合は、研究大会の発表申込時に、候補者になることを申し出る。研究奨励賞の場合は、会員の自薦または他薦によって、毎年9月30日(必着)までに所定の推薦書により申し出る。

5. 審査に関する委員会の構成：学会賞委員会の委員は、委員長1名、副委員長1名の2名で構成される。理事会が選出、承認し、代表理事が任命する。学会賞委員会は、細則に記した手順に従って審査を進めるために、優秀発表賞については、前年度の3月の理事会において審査委員を選出する。また研究奨励賞については、当該年度の11月の理事会において審査委員を選出する。

優秀発表賞の場合、細則に記した手順に従い、優秀発表賞審査委員会（学会賞委員を含む4名程度）を構成する。基本的には7月～10月に審査を行う。研究奨励賞の場合、細則に記した手順に従い、研究奨励賞審査委員会（学会賞委員を含む5名程度）を構成する。なお、必要に応じ会員の協力を求めることができる。基本的には11月～2月に審査を行う。

6. 審査（又は選考）方法

(1) 選考には、学会賞委員を含む各委員の過半数（委任状を含む）の出席を要する。

(2) 審査は、(a) 研究発表や論述展開の論理性、(b) 研究の方法・技術の適切性、(c) 成果の独創性、(d) その他（教育実践への寄与、学会活動への貢献度など）の4観点から行われる。

(3) 各委員は優秀発表賞の候補者、研究奨励賞被選考論文（あるいは著書）に順位

と意見を付して委員会に臨み、審議の上、受賞候補者を決定する。優秀発表賞の場合は、その結果を11月の理事会に報告し、理事会の承認を得る。研究奨励賞の場合は、その結果を3月の理事会に報告し、理事会の承認を得る。学会賞委員会は、両賞の結果について年次総会で報告し、その年度の学会紀要に理由書も添えて結果を報告する。

7. 改正の手続き：本規程の改正は、理事会で行う。

8. その他：受賞者が決定しない場合は、その年度の授賞は行わない。

付 則：実施にあたっての細則は理事会において補うものとする。

日本カリキュラム学会研究奨励賞 規程（現）

- 1 名称：この賞は、日本カリキュラム学会研究奨励賞（略称：学会賞）と称する。
- 2 趣旨：日本のカリキュラム研究の発展を期して、若手学会員(原則として満 39 歳以下)の研究を奨励することを目的とする。そのため、受賞者に賞状ならびに賞金を授与する。
- 3 対象者と賞金：
毎年原則として 1 名、5 万円。
- 4 審査対象：
応募締切日から過去 2 年間に公刊された本学会紀要掲載論文等、カリキュラム研究に関する本学会員の著書・論文とする。
- 5 応募の方法と締切日：会員の他薦により、この賞に応募する旨、毎年 10 月 31 日(必着)までに、所定の推薦書により申し出る（著書ないし論文 1 部を提出）。
- 6 審査手順：
審査委員会を構成し、毎年前年の 12 月末までに著書ないし論文(以下、被選考論文という)を、2 点以内選ぶ。委員会は、基本的には 1 月～3 月に審査を行い、その結果を理事会に報告し、理事会の承認を得て年次総会で発表する。
- 7 審査委員会の構成：
審査委員会は、本学会理事の互選により、当該年の紀要編集委員会を含む 10 名以内で構成する。審査委員の任期は理事の任期と同一とし、再任は妨げない。委員長は委員の互選とする。なお、必要に応じ会員の協力を求めることができる。
- 8 審査方法：
(1) 選考には、委員の過半数（委任状を含む）の出席を要する。
(2) 被選考論文は、次の観点から審査される。
 - (a) 論述展開の論理
 - (b) 研究の方法・技術
 - (c) 成果の独創性
 - (d) 教育実践への寄与
- (3) 各委員は被選考論文に順位と意見を付して審議にのぞみ、多数決をもって受賞者を決定する。
- 9 なお、被選考論文がない場合および受賞者が決定しない場合は、その年度の授賞は行わない。
付則：実施にあつたの細則は理事会において補うものとする。

日本カリキュラム学会 優秀発表賞及び研究奨励賞に関する規程（案）

1. 趣旨：日本カリキュラム学会は、カリキュラム研究の奨励と今後のさらなる発展が期待できる優秀な若手カリキュラム研究者を表彰することを目的として、原則として毎年、優秀発表賞及び研究奨励賞を授与する。なお同賞の審査に關わつて、学会賞委員会を置く。
2. 授与の対象と副賞：優秀発表賞（若手名）と研究奨励賞（原則 1 名）の 2 つを定める。優秀発表賞の場合、入会后 2 年以上 8 年以下の会員が対象となる。ただし前年度受賞者は対象外とする。研究奨励賞の場合、入会后 2 年以上 15 年以下の学会活動歴を持つ会員が対象となる。優秀発表賞には賞状と賞金 1 万円を授与する。研究奨励賞には賞状と賞金 5 万円を授与する。
3. 審査（又は選考）の対象
 - (1) 優秀発表賞：当該年度の全国大会において発表された内容（発表要旨、所定の期日までに提出された発表資料を中心に行い、当日の発表の様子を参考）とする。なお他学会等での発表と重複しない、未公開でオリジナルなものでなくてはならない。
 - (2) 研究奨励賞：応募締切日から過去 2 年間に公刊された本学会紀要掲載論文、カリキュラム研究に関する本学会員の著書等とする。
 4. 応募の方法：優秀発表賞の場合は、研究大会の発表申込時、候補者になることを申し出る。研究奨励賞の場合は、会員の自薦または他薦によつて、毎年 9 月 30 日(必着)までに所定の推薦書により申し出る。
 5. 審査に關する委員会の構成：学会賞委員会の委員は、委員長 1 名、副委員長 1 名の 2 名で構成される。理事会が選出、承認し、代表理事が任命する。学会賞委員会は、細則に記した手順に従つて審査を進めるために、優秀発表賞については、前年度の 3 月の理事会において審査委員を選出する。また研究奨励賞については、当該年度の 11 月の理事会において審査委員を選出する。優秀発表賞の場合、細則に記した手順に従い、優秀発表賞審査委員会（学会賞委員を含む 4 名程度）を構成する。基本的には 7 月～10 月に審査を行う。研究奨励賞の場合、細則に記した手順に従い、研究奨励賞審査委員会（学会賞委員を含む 5 名程度）を構成する。なお、必要に応じ会員の協力を求めることができる。基本的には 11 月～2 月に審査を行う。
6. 審査（又は選考）方法
 - (1) 選考には、学会賞委員を含む各委員の過半数（委任状を含む）の出席を要する。
 - (2) 審査は、(a) 研究発表や論述展開の論理性、(b) 研究の方法・技術の適切性、(c) 成果の独創性、(d) その他（教育実践への寄与、学会活動への貢献度など）の 4 観点から行われる。
 - (3) 各委員は優秀発表賞の候補者、研究奨励賞被選考論文（あるいは著書）に順位と意見を付して委員会に臨み、審議の上、受賞候補者を決定する。優秀発表賞の場合は、その結果を 11 月の理事会に報告し、理事会の承認を得る。研究奨励賞の場合は、その結果を 3 月の理事会に報告し、理事会の承認を得る。学会賞委員会は、両賞の結果について年次総会で報告し、その年度の学会紀要に理由も添えて結果を報告する。
7. 改正の手続き：本規程の改正は、理事会で行う。
8. その他：受賞者が決定しない場合は、その年度の授賞は行わない。
付則：実施にあつたの細則は理事会において補うものとする。

第 11 回研究集会（2021 年 3 月 21 日）報告

テーマ：GIGAスクール構想の課題と展望－カリキュラムを中心に－

日時：2021年3月21日（日）10時00分～12時00分

場所：オンライン

コーディネータ・司会：村川雅弘（甲南女子大学教授）、木原俊行（大阪教育大学教授）

文部科学省よりGIGAスクール構想が示され、全国の公立小中学校の全ての児童生徒に端末が配布され、学校のネットワーク環境の整備も進められている。この集会では、GIGAスクール構想の可能性と課題を検討するとともに、学校や地域教育行政等がテクノロジーに振り回されることなく、それを教育改善に活かすための方策を、カリキュラム・マネジメントを中心にカリキュラム研究の幅広い知見をもとに考えることとした。

集会当日は、代表理事（京都大学教授・松下佳代）の挨拶、コーディネータによる本集会の趣旨説明を経て、以下の方々から、テーマに基づく報告が呈された。

- ①大塚和明氏（文部科学省情報教育・外国語教育課情報教育振興室室長補佐〈当時〉）
- ②高橋 純氏（東京学芸大学准教授）
- ③中川斉史氏（徳島県上板町立高志小学校校長）

まず、大塚氏から、全国の学校のICT環境整備の現状と展望、1人1台端末の本格運用におけるICT活用のあり方や留意点、活用を推進するための文部科学省の支援方策等が紹介された。次いで、高橋氏は、GIGAスクール構想の特長を活かした、クラウド活用に基づく授業の可能性を解説した。また、それが成立する条件を整理するとともに、その事例を提供した。中川氏は、GIGAスクール構想に対する学校、教師を含む関係者の反応、その多様性に言及した。また、それに学校や教育委員会で生じている様々な「事件」を紹介し、その原因を論じた。さらに、ICTを子どもの「手になじませる」ためのカリキュラムの必要性とそれを実現するためのアプローチ等を提案した。

これらの報告に対して、指定討論者の西岡加名恵（京都大学教授）会員から、「2021年度中に最低限実施すべきICT活用」「学習効果のあがるICT活用」「ICT活用がもたらしうる危険性」「ICT活用の先に見通すべき学校像」等の6つの問いが報告者に投げかけられた。それらに対して、例えば、大塚氏は、「感染症対策等の観点からも早々に、対面でもオンラインでも授業ができる体制を整える必要がある。それを実現するためには外部人材活用が大切である」と述べた。また、高橋氏は、学習効果をあげるICT活用は、見方・考え方の精錬や学習形態の工夫と同様に「学習活動の質を上げる」という捉え方に基づくべきであること、教育におけるDX（スタディーエックス：GIGAスクール構想を浸透させ、学びを豊かに変革していくスタイル）では「活動」共有にその本質があることを強調した。中川氏は、「目の前に端末があることで子ども自身の興味の連続・発展が促され、学びが子どものもものになる」と述べた。

その後、参加者からの質問（ICT環境の整備の地域・学校・教師間の格差、個別最適化とICT活用の接点）に対して、報告者からの補足コメントが呈された。

本集会のねらいに即して、コーディネータがまとめをおこなった。それは、カリキュラムのマ

クロレベルからミクロレベルまでに及ぶ、テクノロジーを教育改善に活かすための方策であった。最後に、上地完治（琉球大学教授）研究委員会委員長が本研究集会の意義を再度確認し、主催者を代表して登壇者・参加者への謝意を表した。

なお、研究集会の参加登録者は221名、アクセス者数は136名であった。

（文責 木原俊行）

「秋のセミナー2021」オンライン開催（公開）のお知らせ（第一次案内）

働き方改革のためのカリキュラム・オーバーロードへの対応事例

企画趣旨：

学校現場は忙しい。国際的に証明もされ、働き方改革の法改正もなされた。政策による対応をさらに求めなければならないが、それぞれの現場からできるカリキュラム上の工夫はないのだろうか。ESD（持続可能な開発のための教育）やSDGsの活用、エビデンスにもとづく教育活動や業務の見直しといった学校レベルの試みを提案いただく。教育委員会や文科省との連絡調整も含めて、各提案の意義や実行の可能性について検討するとともに、参加者各人の現場の状況と課題を出し合い、何らかの打開策を見出し合える場としたい。

主催：

日本カリキュラム学会（担当：広報・若手育成委員会）

日程：

2021年11月14日（日） 13:30～16:30（予定）

報告者とタイトル（予定）：

住田昌治（横浜市立日枝小学校校長）

「持続可能な学校づくり～教職員のハッピーが子どもの笑顔になる～」

（参考：単著『カラフルな学校づくり－ESD 実践と校長マインド』他、

<https://toyokeizai.net/articles/-/446225>）

森 俊郎（岐阜県養老町立小学校教務主任）

「エビデンスに基づく学校改善～働き方改革の視点から～」

（参考：共著『学校の時間対効果を見直す！－エビデンスで効果が上がる16の教育事例－』）

指定討論者

田村知子（大阪教育大学）

司会

金馬国晴（横浜国立大学）

子安 潤（中部大学）

参加費、参加資格：

無料です。公開ですので、会員以外の参加も可能です。

参加方法：

Zoom を用います。Google Form で事前に申し込んだ方に、参加方法をお知らせします。

詳細は学会 HP で、後日お知らせします。

問い合わせ先：

日本カリキュラム学会事務局（jscs@nifty.com）

※「秋のセミナー」は、日本カリキュラム学会の社会貢献的行事として、すべての学校関係者及び教職を目指す学生・院生、報道機関関係者、研究者に公開しています。昨年に引き続き、オンライン開催です。多数のご参加をお待ちしております。

事務局からのお知らせ

1. 会員現況報告（2021年6月10日時点）

■会員総数 712（一般会員 629、学生会員 77、団体会員 6件）

※連絡先不明者 16名、会員一時資格停止者 29名、退会希望者（会費未納）2名を含む。

【内訳】

新規入会者：23名

退会・強制退会者：49名

一時停止資格者：29名

連絡先不明者：16名

退会希望者（会費未納）：2名

2021年度からの新入会者：23名（一般：11名、学生：12名）

2021年4月1日からの新入会者：20名（一般：9名、学生：11名）

■会費納入率（2021年6月10日時点）

2021年度：完納 430名 未納 251名 計 681名 63.1%

2020年度：完納 620名 未納 38名 計 658名 94.2%

※連絡先不明者 12名含む、会員一時資格停止者 29名・退会希望者（会費未納）2名除く。

■新規入会者（2021年3月2日～2021年6月10日）23名

	入会年月日	氏名	所属機関名	会員種別	推薦者
1	2021/3/2	佐藤 正寿	東北学院大学	一般会員	吉富芳正

2	2021/3/10	渡邊 雅紀	所属非公開希望	学生会員	事務局
3	2021/3/15	鈴木 草嘗駒	名古屋大学大学院 教育発達科学研究科	学生会員	事務局
4	2021/4/14	今泉 尚子	所属非公開希望	学生会員	近藤孝弘
5	2021/4/12	小柳 亜季	所属非公開希望	学生会員	事務局
6	2021/5/20	平岡 秀美	所属非公開希望	学生会員	樋口直宏
7	2021/4/10	紺谷 遼太郎	所属非公開希望	一般会員	事務局
8	2021/4/16	両角 遼平	広島大学大学院教育学研究科	学生会員	事務局
9	2021/4/16	飯岡 裕介	所属非公開希望	一般会員	浅野信彦
10	2021/4/16	小谷 卓也	所属非公開希望	一般会員	柳田雅明
11	2021/4/20	祁 白麗	京都大学大学院	学生会員	事務局
12	2021/4/28	八釵 明美	知多市立旭東小学校	一般会員	村川雅弘
13	2021/4/26	玉井 慎也	所属非公開希望	学生会員	事務局
14	2021/5/13	和田 佐和子	所属非公開希望	一般会員	藤川聡
15	2021/5/12	小野 太恵子	所属非公開希望	一般会員	西岡加名恵
16	2021/5/10	伊藤 大輔	秋田県立大学本荘キャンパス	一般会員	事務局
17	2021/5/24	豊島 まり絵	所属非公開希望	学生会員	事務局
18	2021/5/13	鎌田 祥輝	所属非公開希望	学生会員	事務局
19	2021/5/20	田中 和代	所属非公開希望	学生会員	田中満公子
20	2021/5/15	齋藤 淳	所属非公開希望	一般会員	事務局
21	2021/5/24	岡村 亮佑	所属非公開希望	学生会員	事務局
22	2021/5/27	杉本 泰聖	University of Miami	学生会員	事務局
23	2021/6/2	藤江 康彦	東京大学大学院教育学研究科	一般会員	事務局

■退会者（2021年3月2日～2021年6月10日）32名

	退会日	会員名	所属機関名	会員種別
1	2021/3/6	白杵 龍児	所属非公開希望	一般会員
2	2021/3/31	新井 郁男		一般会員
3	2021/3/31	伊藤 利明	名古屋産業大学	一般会員
4	2021/3/31	金子 邦秀	同志社大学社会学部	一般会員
5	2021/3/31	筑波大学附属中学校 教育課程研究会		団体会員

6	2021/3/31	綿引 伴子	金沢大学 学校教育系	一般会員
7	2021/3/31	奥野 佐矢子	神戸女学院大学	一般会員
8	2021/3/31	藤崎 賢二	熊本市立帯山西小学校	一般会員
9	2021/3/31	松本 伸示	兵庫教育大学	一般会員
10	2021/3/31	松森 靖夫	山梨大学教育人間科学部 理科教育講座	一般会員
11	2021/3/31	坂井 誠亮	北海道教育大学旭川校	一般会員
12	2021/3/31	楠本 奈緒子	鳴門教育大学大学院	学生会員
13	2021/3/31	佐々木 陽子	東北大学教育学部研究生	学生会員
14	2021/3/31	小峰 総一郎	中京大学国際教養学部	一般会員
15	2021/3/31	富田 知世	大月市立大月短期大学	一般会員
16	2021/3/31	今関 豊一	国立教育政策研究所	一般会員
17	2021/3/31	副島 孝	愛知文教大学	一般会員
18	2021/4/15	井上 正允		一般会員
19	2021/4/19	松澤 徹	東京都立国立高等学校	一般会員
20	2021/4/19	張 思瑤	国士舘大学大学院 人文科学研究科	学生会員
21	2021/4/19	手塚 裕	所属非公開希望	一般会員
22	2021/4/20	大塚 雅之	所属非公開希望	学生会員
23	2021/4/21	砂田 信夫	佛教大学	一般会員
24	2021/4/27	川村 悠太	所属非公開希望	一般会員
25	2021/4/30	千葉カリキュラム学会 (村瀬 光生)	千葉県教育庁企画管理部教育政策課	団体会員
26	2021/4/30	井場 麻美	東北大学大学院	学生会員
27	2021/5/10	佐藤 学	学習院大学	一般会員
28	2021/5/15	加藤 大貴	株式会社 Prima Pinguino	一般会員
29	2021/5/19	大屋 敬一	福岡市立高取小学校	一般会員
30	2021/5/19	聖心女子大学図書館	所属非公開希望	定期購読
31	2021/5/20	日下 明典	所属非公開希望	一般会員
32	2021/5/21	畑中 明	所属非公開希望	学生会員

2. 寄贈図書一覧（2021年3月4日～2021年6月10日到着分）

著者名	タイトル	出版社等	発行日	受領日
橋本美保、田中智志(編著)	大正新教育の実践:交響する自由へ	東信堂	2021/1/30	2021/3/10
日本国際理解教育学会(編著)	国際理解教育を問い直す:現代的課題への15のアプローチ	明石書店	2021/3/30	2021/3/31
大杉立、澁澤栄、中嶋康博、清原昭子、立川雅司、小田切徳美、丸山幸夫、その他(著)	学術会議叢書 28 日本の食卓の将来と食料生産の強靱化について考える	公益財団法人日本学術協力財団	2021/1/27	2021/3/31
ダイアナ・E・ヘス(著)、渡部竜也、岩崎圭祐、井上昌善(監訳)	教室における政治的中立性:論争問題を扱うために	春風社	2021/3/12	2021/5/11
耳塚寛明、浜野隆、富士原紀絵(編著)	学力格差への処方箋:[分析]全国学力・学習状況調査	勁草書房	2021/5/20	2021/6/9

3. 会計監査について

2021年5月20日の10時からZoomを利用した会計監査を、監査担当の上野委員と緩利委員、および、二宮事務局長と国際文献社の担当者により行った。会合費の予算について、今後も、理事会をオンラインで開催していく予定があるかどうか、質問があった。会計の状況としては、特に問題点や不明瞭な点はなかったとの報告がなされた。

4. 令和3年度(2021年度)分会費納入のお願い

今年度分の年会費が未納の会員の方は、納入をお願いします。2021年6月10日時点での2021年度会費の納入率は63.1%です。納入促進に、会員のみなさまのご協力をよろしくお願い申し上げます。

また、前年度(2020年度)分までの年会費が未納の会員の方におかれましては、未納分の年会費の納入もあわせてお願い申し上げます。

会費納入状況につき、ご不明の点がございましたら、ご遠慮なく(株)国際文献社内・日本カリキュラム学会会員窓口までお問い合わせください。

(年会費:一般 8,000円、学生 5,000円、団体 10,000円)

【 入・退会、年会費納入、会員 web 管理、会報発送等各種問い合わせ先 】

〒162-0801

東京都新宿区山吹町 358-5 アカデミーセンター（株）国際文献社内

日本カリキュラム学会会員窓口

Tel : 03-5389-6213 Fax : 03-3368-2822

E-mail : jscs-post@bunken.co.jp

【 上記以外の学会運営に関する問い合わせ先 】

〒640-8510

和歌山市栄谷 9 3 0 和歌山大学教育学部 二宮衆一気付

日本カリキュラム学会事務局

E-mail : jscs@nifty.com

【 学会ホームページ 】

URL : <http://jscs.b.la9.jp/>